



大正三年二月廿三日印刷
大正三年二月廿五日發行

(定價三錢)

長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
編纂兼發行人 安井正夫
上水内郡芹田村字中御所八十番地
印刷者 田中彌助
長野市西后町乙廿一番地
印刷所 長野新聞社活版部
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地
發行所 蘆澤書店

岐蘇林友

第五十二號目次

談 叢、採種苦辛談 中村子之作
雜 報、山林學校便り
通 校友會便り、會員消息
信、臺灣より、豊橋兵營より
シシガホールより、
佐渡より、運動會決算
報告、安井、川崎、林三
氏慰勞金募集、廣告、其他

生徒募集廣告

來四月本校第一學年ニ入學
スベキ生徒約四十五名募集
ス入學手續ハ左記ノ通り
大正三年二月
長野縣立木曾山林學校

○入學手續

本校ニ入學セントスル者ハ入學願書ニ
履歷書及體格検査書ヲ添へ來ル三月廿
日迄ニ差出スベシ其様式左ノ如シ

入學願書(用紙美濃紙)

御校へ入學志願ニ付御許可被成下
度履歷書及身體検査書相添此段願
上候也
年月日

何府縣何郡市町村何番地居住
何府縣族稱誰子弟
入學志望者 何 某印

全上

右父母後見人 何 某印
長野縣立木曾山林學校長安藤時雄殿

履歷書

本籍、何府縣何郡市町村番地族
稱戶主ハ誰子弟寄留地何府縣
何郡市町村番地

學業

一、何年何月ヨリ何學校ニ於テ何
年修業若クハ卒業(證書ノ寫
ヲ添フベシ)
一、何年何月ヨリ何年何月迄何處
何某ニ就キ何學ヲ修ム

賞罰

一、何年月日何處ニ於テ何事ニ付
賞又ハ罰
右之通りニ候也
年月日

身體検査書

本籍 何府縣郡市町村番地族稱
寄留地 全上
何 某
生年月日

一、體格 一、身長 一、體重
一、胸圍 常時 一、視力 一、痘
空虛

年月日 何病院長又ハ開業醫何某印

○入學資格及試驗
入學資格左ノ通り

一、年齢満十四年以上ノ男子ニシテ高等小學卒業若クハ中學第二學年以上修業又ハ右同等以上ノ學力ヲ有スル者

二、身體健全ニシテ規定ノ學科ヲ修ムルニ耐フル者

三、品行方正ニシテ林業ニ従事セントスル志望確實ナル者

四、在學中學資ヲ辨シ得ル者

右第一項末段同等以上ノ學力ヲ有スル者ノ外無試験入學ヲ許可ス但シ入學志望者ガ募集定員ニ超過スル時ハ應募者全體ニ就テ試験ヲ行フ其程度ハ高等小學卒業ノ程度ニ於テ國語、算術、理科ニ就テ試ム

若シ願書差出期限迄在學中ニシテ三月末迄ニ卒業若クハ修業見込ノ者ハ其旨記載セル當該學校長ノ證明書ヲ願書ニ添付スベシ

○入學試験場
試験ハ本郡ノ者ハ本校ニ於テ其他ノ者ハ其地郡市役所ニ於テ執行ス後者ノ場合ノ者ハ入學願書ニ添ヘテ受験地ヲ届出ヅベシ

○試験期 日
試験ハ四月四日午前九時開始

○注意
試験當日ハ洋服若クハ袴着用、筆硯、鉛筆、小刀、用紙等携帯ノコト

尙本校規則書入用の者は二錢切手封入申込まるべし

特別廣告
拜啓陳者今回完全なる卒業生名簿作製致度候に就ては御多用恐入候へ共左記様式により三月末日迄に本會宛御回報煩度此段及御頼候也
太正三年二月 校友會

様式		氏名	舊氏名
卒業回数			
資格位勳			
現住所			
兵役	本欄ニハ役種、兵種、官等、徵兵、及退營年月日其他詳細ニ記入ヲセヨ		
卒業後ノ状況	本欄ニハ卒業後ノ學業、就職、轉勤、俸給及其年月日等卒業後ノ履歴ヲ可成詳細ニ記入セラレタシ		

採種苦辛談

大日本山林會特別會員 中村子之作
信濃山林會
該話しは商用の爲來福し木會山林學校長安藤先生宅へ新年祝賀に伺ひ次いでに小生精撰に係る赤松種子販賣廣告を願ひたる節其

採種談を一寸申し上げたら其れは参考にもなるから書いてとの事原より文章にはならぬけれど有り餘りの儘御披露迄かくの如し。實行の伴はざる學問は學問でも何でも無い學問の程度より實行が強ければ奇人だの狂人だの言はるゝ事がある私は先輩者や友人に造林狂だと言はれて居るそれを悪い異名を命せられたとは思はぬ其譯はこうだ私は諏訪郡山浦の百姓で青年の時冬春炬燵這りして難談して居るも何だか意氣知がないから何か極細資本で商ひをして見たいと考へ金四圓を持ち出して木會敷原のお六櫛以下解櫛すじ立及奈良井で製産する塗櫛類を買ひ出し洗馬あたりから乞食の兄の様な商ひを初めたのが十九才の冬十一月十五日である次いで十七の春から小賣を止めて仲買を始め四十二才迄都合二十四年間斯業に従事し西は名古屋市から東海道筋東北一帯の都市足跡至らざるなく取引店を拵へて商ひましたのが世の變遷は仕方のないものでセロイド即ち人造ゴムが漸次流行して名古屋市では竹のすき櫛か盛に出来るお六櫛が賣れぬ多年實験のある木櫛商を廢めねばならぬ破目になり終に歸農いたしましたが何んだか農業は手に着かず今度は山浦で生産する夏秋蠶種と養蠶道具一式を商ひ馴れぬ事として失敗に失敗を累ね明治四十二年には首の廻らぬ様に負債をし時に東京の元取引店から手代に頼みたいとの福音に接し明い

た口に餅とは此事だ直ちに應じて行つた所が一切先き賄も月給金貳拾圓年未賞附きで雇れた元來木櫛は小間物店で賣り捌くものであるから私は地方に多大な得意店があつたからである此のやうな取り止めのない生活をして人生の半を越わたりが始終林業には餘程趣味を以て居て先づ大日本山林會に進んで加盟し大家の意見を叩き聞暇あれば林業の書物に耽り或は山河を跋渉して美林を觀賞し禿山を見ては悲觀し或は公會私會炬燵談等人に接すれば造林の急務を説き而して學校若しくは社寺へ樹苗を寄贈するを以て最大快事としたのである然し之れにはよつて來る原因があります私の父も伯父も樹を植ゑなければならぬ彼處の栗はどうの此處の槻はと幼な心に聞かせられて居つたから其の精かと今思はれる前に述べた學問の實行と云ふことは私の考へでは人間が自然の力を利用して自然の迫害を防禦することだと思ふから木櫛商時代から樹木の種子を採りて造林用の種苗商になりたいたの希望であつたが見たり聞いたりして居つた事であるが機運愈々熟し明治四十一年諏訪郡八ヶ岳字西岳御料林の落葉松へ結實したから該母樹林三百三十四町歩餘の拂下を得て採收する事になり茲に積年の希望達し先輩者の意見と御注意もあり旁々購買者の氣に入る様に精撰したから創業早々各方面の厚き信用を蒙り其の年採つた種子は落葉

松の外にハンノキとヤシヤブシなどが一粒残らず賣り盡し其の翌年四十四年には落葉松結實せざるに依り赤松種子豊作であつたから之れを採取する事になり約述果で三百石斗り購入し其翌四十五年には落葉松結實し赤松更に結實なく依りて落葉松の述果を採收し昨大正二年には落葉松結實更になく其の以り赤松の方が結實したるに依り之れを採收する事とし約三百石許り採收し此の他にヤシヤブシ、ハンノキ、キワダ等の種子を採取した之れ等述果の乾燥精種は毎年十月中旬から翌年四月中旬迄である其間天氣でさへあれば一日も缺かさず天日に晒し精種し各需用者へ供給したが前年の實験もある事であるから昨舊冬十二月末日精種事業を一旦先づ中止する事とし來三月又開業する事に致しました弊地では古來會て該山林用の種子の如き採取した者がなかつたが私が斯業を始めたから農閑時ならぬ収入金があるとして大喜びて採收時期には懸命になりて働くから誠に都合が宜いさて之れからほんどうの採種苦辛談である約三百石の述果から精種するにはどれだけの機具が必要であらうかとは人の聞かんと欲する所であるから左に述べる

一 善光寺筭と稱する大きな箕大拾個
一 ブリキ製五升箕五個

一 續き庭(合せ庭とも云ふ)も言ふ六尺中二間二百枚

一 百性の使ふ初篩四個
一 玄米篩大目中目粉篩各二個宛計六個
外に箒煙草箱ヅツク大袋數個及唐箕落葉松と赤松の述果採收に付き申述べます赤松の方はさうでもないが落葉松の方は餘程骨折の事があります私の拂下げた西岳の母樹の多くは五六間の高さであります之れは明治維新前後林政のゆるんだ時入會者が優良の樹は地上二三尺より六尺位迄の所から亂伐して不良樹とも云ふべき幹技同大のもの點々伐り残されてあるもの及び前者亂伐の根株から技條が伸長に三本位叢生したるもの樹幹となり之等に結實致します或は七八間の樹高もあるが併して十二三間以上十五六間にある技條少なく成長の盛な樹には未だ更に結實し古い右様の母樹でありますが何に致せ樹に登りての仕事であるから命懸けの業であります然るに御料局の御拂下げ旨示は母樹を損傷せざる様にとて直徑二分大の枝條の外伐ることにはなりません私には愛林思想があるとの御認めで拂下げて下さつた譯だうであるから何處迄も其御旨意を守らねばなりませんから多數の人夫を役しての事であるから其見廻りで注意が骨折りなどで若し不都合の事をすれば其日採收した述果の全部を沒收して其日から使はぬ事にして人夫の根性の分たものゝ外使ひません
どんな道具でどんな事をして採るかとは聞

かんとする事であるが道具としても鎌で採るので普通木鎌と稱する厚鎌で長さ五寸以上五寸五分位のもので此鎌の柄に錐で穴を二つもんで外に長六尺及九尺位の棹の先へ鎌の柄に合ふ様に二つ穴をもんで双方合せて針を差しますと長柄の鎌になります母樹の下及び登りて枝の小枝掻き落すのであります之れは二人組で樹下では連果を落とす此様の次第であるから妻子を伴ひて行く者が一番割が宜いのであります

り) 採取したるもの壹斗即ち果數三千七百七十前後を適當に乾燥すれば鱗片開きて最初に出たるもの塵芥交りの羽根付種子約貳升位採り次で最上等六升位次で中等約五升最後に下等約三升(毬果の片破共)を得て計壹斗六升上等羽根付四升の羽根を去て粒種壹斗となる(壹升の羽根付が貳合五勺になる譯だ) 此量百四十四匁以上百八十八匁迄の種子あり更に中等種子でも百四十四匁以上百六十匁位の量目あり更に下等に至りて大に量目を減す之れ鱗片等加り居るを以てなり又上等羽根付も普通七十匁と稱すれ共六十匁位より八十匁迄ある事もあり如斯其豊凶に依りて大差異を生ず更に發芽歩合に至りても〇、五及九匁位のものあり最上等になれば六十七匁を有するあり小生の明治四十三年に採取したるものは正に六十七匁ありたり如斯差異甚しきものなれば購買者は先づ目方をきき買入れざるべからず且又新古の檢定を試験器で實行すれば安全なれ共素人の方法は第一光澤之れは以心傳心の第二種子に多く穴のあるものは古種と知るべし第三價高直なれば虫食穴のあるものを撰別すれば不明なる譯なれば幾粒も押しつぶして若し麩になりたるものあれば古種混入と勘考すべし故に信用ある種屋より買入るを確實なりとす且又昨年来樺太種朝鮮種等輸入せるを以て一見にては良種子を得る事至難となれり

生の赤松毬果は一斗の量目三貫七百目計りあり此毬果の數約六百八十個から千七八百個もあり内に就き千八十個前後のもの最も種子を有す精撰種子約四合を得其以上に至りてはシイナ種子多く最小のものに至りては精撰種子二合五勺位に過ぎず但し四五十年生の母樹から採取したるものは一千四百果前後にして正に五合餘の精撰種子を得品質も優良なれども他の穀物種子の如く必ず望みても好都合の場合にあらざれば之れのみ採種すべからず誠に遺憾の至りである故に私は一斗一千五百果以下のものは更に引取らざる事にして居るか精撰の終りに調べ見れば約生の毬果三斗で種子一升に過ぎず之れは試験的に毬果から全部脱種したら其以上あるに相違あるまいが營業にするには餘り煩しければ大抵で切り上げにするかである該種子弊地産は一升量目二百六十匁でありますこんな都合であるから一升七十五匁高いなんと云はずに買入れて下さい他に精種する方法又多々あらんが予輩はこんな様にして精種す毬果を乾燥するには藪を地上一面に擴げて之れを下敷と稱す此上に續き藪を敷き一枚に毬果約五斗を全面に擴げ一日一回づゝ熊手を用ひて掻きまわし凡晴天なれば一週間にして毬果の約半分位は鮮片下方より開き以後一日二回宛熊手を用ひて掻きまわし約十日若しくは十二日にして毬果の約半分は全分鮮片開き種子の

全部脱落するを以て今回は晝の十一時頃より熊手を用ひて鮮片の開きたるもののみを静かに掻き集め其開きたるもののみを採り半開若しくは開かざるものを撰別し別に採り去り明き藪となし今度は次に敷きたる二枚若しくは三枚の開き脱落毬果を下通と先きの如く掻き取り二枚目若しくは三枚目の藪を明け又先きの如くする事終り迄又然り勿論種子脱落毬果は燃料として他に取去り去開未開毬果は其儘全藪に擴げ二三日乾して置く時は種子の全部は殆んど毬果中より脱落するを以て熊手を用ひて掻き集め燃料の部に入れ藪中にある種子と殘餘の毬果を一所に集め二人して藪の一端を持ち指定の藪に運びひつくり返して其中央を片手に持ち右手に三四人頭の手棒を持ち三四回打ち種子も塵芥も殘毬も共に打ち拂ひ落し更に大目篩(粗篩)を用ひて之れを撰別し一種の方法に依り羽根と種子とを分離し唐箕に懸ける事五回玄米篩に懸け土砂を除く但し大粒小粒は玄米篩の中目を用ひて撰別すこんな都合であるから天候さへ宜ければ譯のない様なもの雀ヒツ四十雀五十雀其他の小鳥の害天候の變降雨降雪には何とも言語に盡されぬ閉口頓首することあり

一度雨雪の襲來する事あれば下敷の藪迄取り込まねばならぬ若し濡さば晴天二三日の損となる且又取り込んだり出したりするに十五六人の手間を要するが若し雨雪あれば夜でも夜中でも起き出で、實行しなればならぬ適には折角出したのを其未だ終らざるに取ひ込む様な事もありあわてゝ取込み晴天の事も忘れぬが明治四十四年十二月三十一日友人と忘年会をして歸宅した所が家の者何だか變であるからと天候を氣支ふから何大丈夫なり若し降雪あれば我輩一人他人の手を借りないときめ込んだ所が天未だ明けざるに降雪に見舞はれ人は屠蘇の氣嫌に晴着を着飾り年賀の回禮最中二百三十何枚の大藪を取込み悲しき常雇人夫未だ來らず半ば取込みた所へ徳誼のある者馳せ來り共力して漸く取り片付けた様なもの恰も火事場の騒ぎ下敷の殆んど全部は積雪六七寸の下に埋没せられたり又昨冬十一月十六日にも大丈夫なりときめ込んで居たら常雇夫三人駈け來り雪だ雪だ大音に呼はり叩き起され勿惶起き出て見れば天今明けんとし積雪二寸餘悉皆取り込みたる時は積雪五寸餘之れ等は其重なる失敗で此他是に等しき風雪風雨の夜も眞黒暗で立ち働き雪達塵濡れ鼠の悲惨爲めに手にアカギレ顔にヒッ之れ狂人にあらざればなし能はざる事なり如斯我一家のみならず常雇夫迄擧げて雨風霜雪と戦ひ又禽鳥を怒鳴りとはさなくも原來が百姓であるから凶年にあらざる限りは別に衣食に窮する譯もなく又多年經驗のある東京某商店へ出勤すれば先き賄で月給二十圓と相當年末賞與を受け

學校便り

○林教諭依願退職。林教諭は本校創立以來本校の爲又寄宿舎の爲盡瘁せられ功勞尠からざりしが今回一身上の御都合により依願退職となりたるを以て去月廿八日講堂に於て告別式を舉行せり因に林先生は今後小學校教育に従事せらるゝ都合にて十一日西筑摩郡王瀧小學校長として赴任せられたり○宮川教諭を迎ふ。林教諭後任として長野師範學校宮川先生を迎ふることとなり一月三十日着任せられたるを以て同日講堂に於て紹介式を行へり辭令左の如し

る事が出来るから只金は望むには如上の通りであるか何んと馬鹿氣た道樂もあるものである世間の人に何んと言はれても笑はれても造林狂は造林狂趣味を忘れぬ一粒の種子が百年の後何程の價になるか本年の勅題は社頭の杉と御發表なされた 聖旨も私か憶測するは恐れ多きことではあるが樹木の種子は百年の後には百萬倍にもなるではないか私の今年採つた赤松種子の量悉皆苗木になるものとすれば丁度日本帝國同胞一人に付き二本づゝの苗木に當る若し之れを禿山に坪一本づゝ植ゆるとしたら勿驚一万二千万坪か四時翠綠になる勘定である一個の狂人であるか國の爲めにはろんなに邪魔にもなるまい(終)

任長野縣立木曾山林學校教諭 宮川 丑 作
兼任會館七級學月手當三員
宮川先生は長野師範卒業後、小學校の教育に從事し、其間獨力を以て修身、教育、法制、經濟等を研究し、文部省の檢定試験に合格し、師範教諭となりては、第三種講師として、縣下各地に出張し、福島にも前後二回來られしを以て、知友から先生も亦第二の故郷の如く舊戀の情ありと云へり、我等は良先生を迎へ得たるを喜ぶ

○紀元節。二月十一日午前九時より例年の通り講堂に於て拜賀式を舉行したるが、今年よりは其筋の達示あり、校長は特に明治二十二年二月十一日に下し賜ひし憲法發布の勅語を捧讀せられ、尙該勅語を下し賜ふに至りし理由を略説し、獻慮に副ひ奉るべきことを訓話せられたり

○安藤校長出張。校長は本月十四日より十九日まで下伊那郡飯田町へ林政及び竹林桃裁講話の爲め廿日、廿一日の兩日上伊那郡飯島村農會竹林學講話の爲出張
因に飯田町に開催の縣主催林業講習生は三日間熱心に聽講し、十八日修了證書を授けたるもの四十九名なりしと云ふ

校友會便り

一月を送り二月を迎ふれば立春と云ふ字面のみは嬉しけれど、蘇峽は依然雪來り寒來る昨今の有様誠に春寒料峭と可申候、我友會は

たる東京府下老農、市川幸吉氏の家訓書に付て説明を加へられ候時、午後三時を報じ候故、こゝに愉快なりし此の會を閉ち申候西山に暮きし斜陽は力なげに殘雪を照らし候、こは一月最終の光にて候ひき。(二月八日翠村誌す)

『永劫にかへらぬ日かと思ふとき』
わたつる涙のあたひ尊とき

○校友會各部顧問及部長打合せ會。二月五日各部顧問部長の打合せ會を、左の件々を議定致候

- 一、運動會費殘額の處分。昨年運動會費用殘額廿圓四十七錢一厘の中、十圓は滿州戰蹟保存會へ十圓は九州東北救済の爲寄附すること
- 一、落成式費殘額の處分。落成式費決算は未了なるも、殘金貳拾餘圓を生ずる豫定に付右殘額は前校長松田、江畑兩氏の肖像を書き額面として講堂に掲揚する費用に宛つる事
- 一、購買部利益金約百餘圓の中半を以て校旗製作半を以て購買基金に宛つる事

但し該事業は本校に於ける其即位紀念事業其の計畫實行案とみなさんす
以上

○大正三年度役員選舉。二月七日午後より校友會總會を開き大正三年度役員を選舉致候が、更に會長顧問の詮衡を経て九日左の通り任命有之候

去る一月卅一日大正三年劈頭の講演會を相催し候開會に先ち本校前教諭林重郎氏、前書記安井正夫氏前教授囑托兼助手川崎本雄氏の送別茶話會を開き候が、生憎、林、安井氏の兩氏は病氣の爲缺席されたるを以て、川崎氏のみ對し安藤會長より謝辭別辭を呈し生徒側よりも各級長其級を代表して別辭を述べ川崎氏の答辭ありて直ちに講演に移り申候

愈講演會に入り先づ内藤技師は本日は思ひ設けぬ講演會に遭遇せるに依り兵家の所謂奇襲の如しとてこれに因み孫子の『以利害を引用し處世の上の一箴たるべきを』の言を引用し、梅村計介君の年頭の新自説かれ候次に一年梅村計介君の年頭の新自覺に付て述べられ候強ひて評すれば、單簡明瞭なるものなりしかど、一道の氣焔は仄見へ候記者は更に君か態度と語調の修練を希望仕り候、諸當日の呼物たりし川崎君の雪中富士山顛末に關する講演に入り候何しろ稀なる壯舉の事故に仰山なる準備殊に六百の靴三枚のジャケット等我らを哄笑せしめ、喫驚せしめつゝ、話は愈佳境に入り満目體々たる芙蓉山腹の天賦の事には我らをして堅睡を吞ましめつゝ、遂に彼の隊員酒井氏遭難の事に及びその慘その烈に一掬の涙なき能はざらしめられ候該隊員中には本校卒業生にて同氏及和田宗吉氏の二名参加せられし事とて校長先生喜悅満面の體を、記者は瞥見致し候、獨り校長先生のみならず生徒は

(部名) (長) (副)

- 研究部 田近善右衛門 都竹武次郎
- 庶務部 田中泰吉 伊藤正之助
- 庭球部 大森悦 丸山鋼造
- 擊劍部 松川久吉 種倉隨藏
- 弓術部 東原智 松澤敏男
- 遠足部 新井彌藏 柳澤得衛

○林先生に紀念品贈呈計畫。右總會前七宮副會長より林先生退職に付在校生各員より拾錢つゝ、贈出紀念品贈呈の件を諮り異議なく可決せり

○兎狩。節分ゆき一陽來復の候とは申す、月の九日より突然六花の續粉たる訪問を受け野も山もおしなべて白皚々たる有様にて候ひし十日午前八時より、鞆肉の嘖もて待ちに待ちし兎狩に出動致し候、場所昨冬の如く、校舎北方の山地にて山嶺には設けの網を張り百餘の勢子は、喊聲轟々全山を壓するの散兵線を進め候ひしも如何なる次第にや兎らしき者は、うの片影をも見せず一同は唯腕の伸るを撫しつゝ、二回の山地跋涉も効を奏せず張振の氣分にて、スゴク下山仕候按ずるに多分前夜來の軒昂なる我等の意氣に彼兎群群易のあまり今朝未明遁逃せしものならんなど自問自答の末自ら高を括り手前味増も甚しき哉と凱旋にて候ひき

鞆肉の嘖は爆發し餘勇溢れて遂に校庭に於て雪合戦の大活劇を演じ候之には校長始め職員一同も加はり雪中の組打迄あり其痛快

大得意にて候ひき話の末に雪中御嶽登山の語あるや、茫然たるもの撫然たるもの錯落致し候ひき。……午前終り中食……
引續き零時半開會先づ……二年伊藤正之助君……雄辯に就て口なくして道を傳しものあり……や口は禍の門とは何たる詭言とて言論の必要を論じ自由を論じ、うの振興を叫びて裕々逼らざる態度も語調も大に觀るべきものにて候ひき次に……三年赤羽高君……我輩の人生觀、獨立自尊の兩極端として乞食と盜賊を擧げ人生須くこの中庸を得んかなとの結論、如何にも中庸それ難きかなにて候……宮田先生……偶感……處世の上にて窮屈極まる道徳や繁雜にわたれる規例に拘泥せらるる、は我輩の欲せざる處を述べられ候……三年長谷川房藏君……死……例に依つての懸河の辯萬丈の氣焔金詞玉藻連發突發の有様恐らくは君の右に出るものなからむと推測仕候死の問題に付様々なる方面より説き去り吾人は喜んで死を迎ふべくそか爲には必要なる準備を怠るべからずと結論致され候記者は君にして喜んで死を迎ふべき靈の準備に論及されし事並に、うが研究を怠り給ふ勿れの婆言を敢て呈するものにて候……大場先生……アイヌ視察旅行談……嘗て北海道に旅行せられし當時の見聞に係るアイヌの風俗習慣につき耳新しき事ども及び鐵道のポイントマシに關する所感の一片を述べられ候
次で校長先生登壇、會場の正面に懸けられ

なるこゝ兎狩以上にてやうやく一同の鬱憤も散り申候正午を合圖に全員食堂に入り薩摩汁にて空腹を醫し健餘界の剛の者も數多發見せられ候、折角の壯舉も獲物なかりきとは申まじく候獲物としては這般の意氣丈にても十分と存候但しこの口實は決して負荷しみにあらざることを附言致置候
○擊劍大會。昨日の遠足部の活動に劣らじとや思ひけむ今日(二月十一日)は又擊劍部の大會相催し候紀元節の拜賀式に陛下の萬歳を祝し奉り遠く皇祖の御偉業を偲ひたるに引續き寒稽古終了旁々武術の大會を開くことば誠に適期に好技と申すべく細予千足國とはよくも申し候よ午前十時半安藤會長開會を宣し次に前日迄の寒稽古に關する校長の報告あり右終て左記十三名に寒稽古中皆勤精勵に付賞状を授與せられ候、
三年 關琴義君 同中垣英一君 二年種倉隨藏君、同松川久吉君、同長崎千萬一君、同福澤定雄君、同都竹次郎君、同丸山鋼造君、同水上莊三君、一年 加藤憲太郎君、同開運隆飛登君、同白井素慶久君、同佐々木久一君、以上茲に於て時恰も正午にて候故一同晝飯の爲一休致し午後零時半より愈試合に入り候審判者は松原武術教師壯漢が嚴寒二句の練磨はこゝに見るも勇ましき數多の搏擊健闘を演じ申候其組合勝負次の如し
其組合は勝負次の如し (三本勝負)

- 湯原 (近藤)
- 小池 (岩瀬)
- 萩原 (二木)
- 白井 (水上)
- 松澤 (宮川)
- 長谷部 (下平)
- 飯沼 (開等々)
- 原潔 (坂本)
- 今井武 (都本)
- 福澤 (松川)
- 長崎 (諏訪)
- 福澤 (記)
- 小丸 (近藤)
- 山本 (加藤)
- 外山 (神岡)
- 種倉 (市岡)
- 中村 (本校)
- 關村 (本校)

○三人援優勝者
 白井君 原潔君 種倉君 市岡君 關君
 三人援の大飛躍は今更喋々を要せず候
 午後三時半會を閉るに當り伊藤福嶋警察
 署長の武術修練上の訓誨有之や會長は起ち
 て來賓諸君に謝辭を述べ擊劍部員に對して
 は猶練磨の餘地あるを訓示せられ候て閉會
 を宣せられ候 會後部員一同茶菓を喫しつ
 勇しかりし今日の事どもを談じやがて散
 會仕候 (二月十一日夜翠村誌す)

會員消息

○關谷靜夫君は十一月十九日岩村田小林區

- 省雇を命せらる(月俸十四圓給與)
- 日野清亮君は栃木縣日光町日光森林測候所雇被命(月俸十四圓)十一月下旬赴任せらる
- 小益益實君は長野縣上田小林區署雇に命せらる
- 大洞盛一君は福嶋縣郡山小林區署雇被命十一月下旬赴任せられたり
- 篠原昇士君は是迄長野縣廳林務課雇なりしが十二月初北安曇郡林業技手に榮轉せられたり
- 原田久保作君は今回足尾鑛業所林業係に轉勤せられたり
- 下枝壽一君は十二月福嶋縣相馬郡石神村バツカメ官行斫伐事務所に赴任せらる
- 一年志願兵として各聯隊へ入營せられし諸氏左の如し
- 吉池三九郎君、甲府歩兵第四十九聯隊第一中隊
- 喜多村明君、名古屋第三十三聯隊第一中隊
- 征矢朴郎君、豊橋歩兵第六十聯隊第四中隊
- 鹽川金次君、東京近衛歩兵第三聯隊第三中隊
- 佐藤一郎君、佐倉歩兵第五十七聯隊第九中隊
- 白井辰雄君、甲府歩兵第四十九聯隊第五中隊

下畑徳十君の葬儀 下畑徳十君の葬儀は十一月廿四日福嶋町伊谷なる同氏生家に於て執行せられ學校よりは安藤校長を始めとして林教諭宮田助手等會葬校友會よりは香奠として金壹圓を贈り安藤校長弔辭を朗讀せられたるが遺族の者は學校の懇篤なる弔慰に對し衷心感謝の意を表し居たり
 ○今井健治松島周一兩君は今回東京府下目黒林業試驗場に雇として入場森林測候の事を見習ふ事となれり
 ○成瀬義郎君は今回愛媛縣西條小林區在勤を命せらる
 ○蘇門會新年宴會、正月十七日在福嶋の卒業生及び休日を得て福嶋に歸省せる卒業生は好機會を利用して舊歡を温むるべく宮下宮田兩君の斡旋により三晴亭に新年宴會を開催することとなり卒業生約三十名職員側にては舊師松田氏、安藤校長、七宮北村兩教諭も出席快談談話語に時を移し歎を盡して散會せり

通信

台灣より
 大脇 又 衛
 謹啓母校愈々御隆盛奉賀候陳者今回新築記念を兼ね信濃山林會開催遊候趣陸卒奉祝致居候就ては立派なる刊行物御配付に預り早速拜見仕候處其結構實に母校を偲ぶに充

分の價值有之候殊に毎回卒業生並に職員各位の御尊影を拜しては只管懷舊の情に堪へ難く候其體裁、趣向、内容等一々整備せるは偏に會長外諸先生並に在校生各位の御盡力と深謝候思はずも蕃地にある身を忘れて寫眞帳と對抗致居候次第其心情御推察被下度候、小生は遠く母校を離れて一孤島に生活し通信だに碌々仕らず恩を仇で返すの徒に有之候處格別御見捨もなく何時も他の諸先輩同様御引廻し被下會長閣下始め各會員諸兄の御厚意萬謝之外無之候

新築記念日當日は恰も新竹廳下の蕃地に滯留し今回討伐に依り包容したる新區域の植物調査に従事し引續き只今も蕃山に生活致候爲祝電も發せず恐入候何卒御勘辨被下度候乍併山にありても今日は記念日といふ事は少しも忘るゝ事は無之當日は「テンタナ」第二高地の頂上にて生蕃相手に母校の爲東に向ひ祝杯を擧げて遙に御盛會を賀し申候小生は引續き蕃地保安林調査を終へ本月廿七日頃歸北の豫定に有之候間今度こゝは林友紙上には是非御登載を願ふべき新記録を送付致度と考へ居候。當嶋目下の氣候は華氏七八十度内外に有之大抵は單衣にて候貧乏人の生活には至極重寶の土地に有之候第二期作(米)は刈り上げ終了し第一期の下準備に之有候本年は例年になき平穩の年と可申居候蕃地新包容地に於ける植物は大抵「クエルカス」「セツト」等のものや其他樟に

有之松類は一向に發見せず只辯大杉、たいわんひのき、とが、さわら等はチヨイ、見受申候
 下らぬ亂言書き並べ失禮仕候蕃山の中の事故筆も紙もなし野宿の間にこの仕末可然御判斷被下度候餘り嬉しき儘御禮申述度亂筆を托して如斯に候末筆各先生並に各位の御健康を祈る(タイヤカン蕃地にて、大正二年十一月十日發)

喜多村 明

謹呈時下寒冷の砌校友諸兄には益々御健全の段奉大賀候降而思生事今般表記の聯隊に入營仕り日々軍務に身を盡しつゝ有之候間乍他事御休心被下度本日は又岐蘇林友御送付被下難有御禮申上候毎日の勤務演習にて綿の如く疲勞したる身体も林友を見ては身自ら輕きを覺薄暗き班内の電燈も今宵は一層輝き渡るを覺え候軍隊内の趣味深き愉快なる事山々有之候へば時期を待て御一報可申候先は御無沙汰御詫旁々此如に候勿々

熱のたわ言

南洋にて 木 下 生
 南洋!!赤道直下!!開いただけで汗が流れそ
 うに思はれたが来て見れば夫れ程でもない
 三伏の炎暑に田の草取りする百姓は如何にも暑つううで有る併し實際當つて見ると其の割に暑くない其れと同じ事有る

が内地の一部の氣樂な人の様に七月の末になるとモ一避暑く云て騒ぎ廻る連中は先づ此方で一日傘なしにモン、と照り付けられたら屹度日射病と云ふものに見舞はれるのは受合で有る
 南洋では扇子の必要がないと云つたら唯れでも一寸變に思ふで有るがコウ云ふ僕も始めて聞いた時には何だか狐につまれた様な氣がした來て見れば實際其の必要がないいや必要がないのではなくて使用しても効力が無いので有る扇子で起す風位何の役にも立たないので有る如何にばた、やつても骨折損のくたびれ儲である其處へ行くと造化の神は仲々ぬかりなく天然の風を澤山配置してある護謨の葉蔭に此の風を迎ふるときはさすが南洋の熱も姿をかかしてしまふ

南洋の夜シンガポールの夕月夜詩的である太陽が地平線下に没するとすつかり涼しくなる芭蕉にすだく虫の音も賑になる内地の秋の夜にそつくりである臘月が椰子の葉末にかゝると亦一段の趣を添へる時には月の光に誘れて妻は戀ふ鹿の聲さへ聞かれる南洋の月はどんよりとして下界をてらす丁度慈母か愛兒に對する情のこもつた眼の様に内地で見れば涙に涙へ渡つて砥ぎ澄ました鏡の様な月は見られない所謂臘月である「月よ月よ何すれしかく多恨で有る」と云ふ語は何かの本で見た事有る三千哩を距

て、外國と名のつく處へ来て見ると此の言葉がより多く意味深長に消化される。僕も有情の人である以上内地の思出に苦む事も有る故郷の空がしみる、戀しい夜もある弱いと笑ひ給ふなら、次の様な歌句は、かんだ御笑ひ迄に書て置くとする。

月の夜や妻戀ふ鹿の聲聞けば

うらろ故郷のおもいでを憂き

南洋の景色は年が年中變化がない少しも目先が變らない同ト繪葉書を見て居る様なものだ。従てあきが来る氣候が暑いせい、か頭がぼんやりになる勉強する氣になれない雑誌や講談本は讀むけれど眞面目な書物は見る氣になれない南洋の土人はソノソノとしたのが多い僕等もソノソノして次第に南洋の土人化してしまふ様なものだ。之は風土が然らしむるのだらうから仕様が、何處に居ても一利一害は免れない不平小言はあるもので有る世の中と云ふ者は、ソノソノ都合よく參らむもので有ると大悟徹底するより仕方ないつまる處南洋は内地で勉強し修養した頭を以て来て夫れを應用して活動せしめる處である勉強する處でなく、實地に踏で働くべき處であると思ふ。何だが言葉が横道へうれてしまつた。モウ此邊で止め様こんな事を知た顔して書程南洋で経験もないから。内地の冬の寒さに閉口して炬燵にばかりかト付て居る人には南洋へ来るに限る大寒

去年便り

佐藤 浪人

友諸兄、餘寒猶去り遣らぬ候益々御健勝の事と賀し上候。其後は思ひ乍らも意外の御無沙汰……明日候従つて浪人の申すことは凡て是去年!! 鬼が泣くか虎が笑ふか乃至牛が感心するか兎も角もテコヘンな通信左に申上ぐ可候。扱新春ならぬ舊春三月辛うじて卒業といふ顔を何の憶面もなく提げて歸郷したる瘦浪人は一ヶ月許り居候を極め込みチョット四月五日は鎮守の祭禮にて僕にとつては遙か四年振なるに加へて其日は浪の卒業祝ひ……慙愧……を兼ねられた其來客の一人山内農學校長は美濃坂下の産にて我先輩に知己ありとのことに益々懐しく覺わしませ一言!! 果樹の害虫征伐や畑仕事の日二三日

も手傳ひ乍ら唯行先の暗い不安に打たれ居り候ひしが五月に入り始めて郡長より遊ぶよりはよからうとの御意を得念々郡道阿佛線測量と出掛け申し候。此線は有名なる歴史地に通ずるものにて即ち終點には日野郷の墓碑阿新見丸の隠松及遠藤爲盛兄弟の阿佛坊及世尊寺等これあり候がくて四旬の外勤別に御参考に供す可きもの無く惟在學時代實習を輕んじたる悔しさに今更盲者の提灯何とやら牛の翠丸三つなし切に在校生諸君の留意を望み候。爾後土木課詰となり測量や製圖に腦殺されしが吾人が出張中最も苦痛を感せしは山野に跋扈する一物!! 世の中に蛇といふ虫なかりせばなと、洒落ても居られず眞實嫌な製圖よりも閉口致し候。さて又待てば海路の日和とやら九月に至りて思ひきや御陵墓測量の御伴仕る光榮を擔ひ宮内省は内匠寮の大妻技手坂田君と同郷伊豫の人なりと共に眞野村順徳院御火葬所を始め奉り西三川なる金山の傳説御陵墓、一宮、二宮、三宮の各御墓に約二週間出張致し候誠に此時は只神殿!! の感に打たれ申候。次で十一月佐渡物産共進會の開かるゝや不肖林業部副主任に擧げられ幸に大過もなく重任を果たし候其節審査官として渡邊縣技師及渡邊御料局出張所長來臨されしが未見の先輩宇佐美氏でも來るかとお待ちした

るも空に候ひき出品分類は苗木類(一六六點)木炭(八九點)竹材(五八點)板類及木材(六〇點)木羽及下駄材類(三四點)苗類(九點)種實類(四五點)樹皮(五點)等にて審査申告書の一部を御紹介申さん。山林苗木に於ては扁柏及杉の一部に優良なるものありしと雖も概して徒長に過ぎ軟弱に傾き根幹の均衡を欠き殊に其根部に至りては全く床曹を省きたる爲め眞根甚だしく伸長し鬚根を欠けるもの等少なからず之等は順て殖林の成績に至大の關係を及ぼすものなるが故に栽培上注意を要す。

木竹材は概ね天然材にして培養を加へざると伐期の選定を誤るものある爲め材質に欠くるものあり。木炭にありては白炭に稍々見るべきものありしと雖も黒炭は殆ど見るに足るものなく殊に煉炭消火不十分なる爲め燻烟或は爆發するものあり俵裝亦不完全なるものあり薪炭材欠乏を告げんとしつゝある今日之れが改善を望む。

樹實其他副産物は出品點數少きに拘らず概ね良好なり殊に椎茸杉種子、榎の實に優物を認めたり殊に椎茸は今後培養調製に注意を加ふるあらば重要な輸出品たるを得べし。就酒醬油類審査官たりし倉田稅務署長は先頃まで福島にありし人にて審査官面識會兼

事務員慰勞會席上共に中乘さんを思浮べ乍ら獻盃いたし候(餘り長くなる故今回はこれに擲筆)

高木小松兩先生の謝狀

舊臘末高木小松先生に向け紀念品料贈呈の處兩先生より左の如き謝狀を寄せられたり。拜啓嚴寒の砌各位益々御清榮賀上候陳は小生退職に付紀念品料として金貳拾六圓四拾錢並に寄附者芳名録御贈與に預り正に拜受芳情奉奉萬謝候一々御禮可申上管に候へ共畧儀本誌上を以て御禮申上候敬具。

大正二年十二月廿六日 高木本枝 校友會御中

拜啓寒氣日に増し候處各位益々御雄健の御事と奉遙察候陳は小生轉任につき紀念品料として金參拾六圓四拾貳錢並に寄附者芳名簿御贈被下難有拜受御厚情の程奉謝候先は畧儀誌上を以て御禮迄如斯に候頓首。

大正二年十二月卅日 小松吉次郎 校友會各位

第十回運動會收支決算報告

一 金百參拾七圓七拾錢 總收入高
一 金四百拾七圓貳拾貳錢九厘 總支出高
差引貳拾圓四拾七錢壹厘 殘 高
(但し此中拾圓は未收入とす)
支出明細書

一 金百拾七圓貳拾貳錢九厘 總支出高

内 譯
金參圓五拾五錢壹厘 庶務部支出
金拾九圓四拾七錢 裝飾部支出
金貳拾參圓九拾八錢五厘 賞品部支出
金參拾六圓拾五錢 接待部支出
金七圓五錢 競技部支出
金參圓七拾四錢 借物部支出
金七拾五錢 審判部支出
金貳拾貳圓五拾參錢參厘 除與部支出
右之通りに候也
大正三年二月 運動會庶務會計係
落成式寄附金領收(大正三年一月)

一金壹圓 肥後金四郎君
一金參圓 兒野榮君
一金壹圓 林省三君
一金壹圓 今井健治君
故下畑德重君吊慰金領收報告
一金五拾錢也 三宅周吉君
一金五拾錢也 永井順君
計金壹圓也
細計金貳圓也
右報告候也 發起人

陸軍の玄米飯試驗

結果極めて好良
陸軍糧秣本廠の研究に係る玄米飯の試驗成

績は左の如し

玄米飯研究要旨

國家の財政國民の健康上玄米飯の炊き方の研究をなせしに幸ひ良妙の成績を擧げ得たり即ち其結果玄米は炊き方宜しきを得れば飯は粘り氣ありて甘味に富み少時日の辛抱に依り意外に食ひ易くなることを發見したり

玄米飯の炊き方

炊き方は釜炊き飯盒炊き蒸氣炊の三種とす
 (一)釜炊き 玄米(洗はぬ前のもの以下同)一に水を一、八より二、までの割合に加へ密に釜蓋をなし押石を載せ次第に火力を強くし沸騰を始めし時より引續き十五分間煮沸したる後燃え火を去り焚き落しのみとなし三十分間位其儘にて蒸し置くべし水の割合火加減、炊き時間等は飯量の多少又は釜の形狀に因りて差したる相違
 (二)飯盒炊き 玄米と水との割合を一、と一、六乃至一、六五とし蓋をなし次第に火力を強くし沸騰を始めしより引續き十五分間煮沸したる後燃え火を去り焚き落しのみとなし十分乃至十五分間其儘蒸し置くべし
 (三)蒸氣炊き 飯蒸罐の場合には玄米と水とを一、と一、一の割合となし罐内に納め蒸氣を通して罐内の温度を攝氏百二十度となし引續き同温度にて二十分間蒸したる後蒸汽の入口並に出口を閉ぢ其儘更に二十分間

蒸し置くべし

退職せる

安川書記、川崎助手、林教諭に對する慰勞金募集廣告
 拜啓 昨年七月中退職の安井書記及九月中退職の川崎助手並に今回退職の林教諭は在職中本校の爲將校友會の爲熱心盡瘁せられ功勞誠に不尠と存候就ては義捐金を募集し多年の功勞に酬ひ度布望に有之候間何卒右趣旨御賛同應分の御寄附相願度此段得貴意候也
 規 定
 一、送金は總て安藤時雄宛の事
 (振替に依るものは東京一七六〇〇番)
 一、期限は本年五月十日迄の事
 一、御寄附額及芳名は本誌に掲載して請取證に代ふ
 大正二年二月

校 友 會

卒業生諸君に謹告

時下寒冷の候御壯健奉賀候就ては同級の友下畑徳重君は朝鮮群山府に於て大に活動されても不幸病魔の襲ふ處となり不歸の數に入り候同君の將來に對し望む處多かりしに忽ち此凶報に接し誠に哀情に堪はず候就ては同君の靈を弔慰せんが爲め弔慰金募

集致度候に付御賛助あらん事を希望致候追而御申込期限は大正三年三月末日限りとし御申込と同時に御送金相成度御送金は木曾山林學校内安藤時雄宛とし之か領收其他に關しては林友誌上に掲載可致候間右様御承引被下度候
 大正三年二月
 發起人 宮下 信一
 宮田 實

廣 告

新築落成記念事業に對し會員にして未だ御寄附無之諸君は此際至急御申込相成度(但し壹圓以上)御送金と同時に記念品(寫真帖壹冊、記念號一冊、繪はがき壹部)贈呈可致候尙會員に限り右記念品御希望の方へは實費送料共八十錢にて代金引替御譲り可申候間至急御申込相成度候
 尙々寄附申込者にして未だ御送金無之諸君は至急御送金を乞ふ
 大正三年二月
 會 員 諸 君 校 友 會

謹 告

赤松精撰種子 (一升量目二百六十匁付) 代價七十五錢送料一升到付五錢

右は自家採述果製造に付品質優良價格の勉強は勿論なれども數量に限り有之候間希望の御向き至急御用命相成度此段廣告仕り候追て二斗以上は送料不申受候
 大正三年二月
 長野縣諏訪郡原村中新用
 中 村 子 之 助